

「留学生を取り巻く犯罪の現状」という勉強会から学ぶ成功のカギ

◆新入学生の皆さん おめでとうございます

入学式の時期である。どの日本語学校においても多くの生徒が希望に胸を膨らませ、一方では、家族の元を離れて外国、それも日本を訪れて独りで暮らすことに不安を持ちながらも、新しい生活の扉を開いている時期であると思う。

ここでまず、何よりも、新入学生の皆さんに「入学おめでとう」という言葉をかけてあげたいと思う。これから、新入学生の皆さんにはどのような未来が待っているのでしょうか。きっと、明るい未来が待っていると思う。もっとも、苦しいことや挫折などもあるかもしれない。しかし、経験したことや努力したことは必ず自分の人生の糧となるのであるから、そのことを肝に銘じて頑張っていたきたい。

さて、「苦しいことや挫折など」ということを書いた。もちろん、人生において、日本にいてもいなくても、日本人であってもなくても、その人の思い通りに物事が進むことは少ないのである。しかし、そのことに腐ることなく、それも一つの大きな経験として受け止めなければならない。日本語学校の中では、そのような「心」も教えていただきたいと思う。

「七転び八起き」という言葉がある。七回転ぼうとも、それを超えて八回起き上がる気概で再起する。すなわち、何度失敗しても立ち直るということを指す。さて、この言葉、少しおかしいことにお気づきだろうか。「転ぶ」「起きる」を繰り返すと、実は「七転び七起き」で起き上がってしまう。つまり、本来は立っている人が七回転んでも八回目を起き上がることはできないのである。ではなぜ、このような回数になっているのでしょうか。「生まれながらにして、立って歩く人はいない」のであり、実は、赤ん坊が一番初めに「立つ（起きる）」ことが八回の「起きる」の中に入っているということなのである。縁起の良い数を並べたなど諸説のある一つの例え話であるが、一番初めの「立つ」を入れたということは、日本人の信仰心的心情に最も納得のいく説明として受け入れられているのである。

さて、言い方は悪いかもしれないが、日本語学校の新入学生の皆さんは、その赤ん坊が立つ時と同じ状況にあるのではないか。皆さんは、「日本語を学ぶ」「日本という国で生活する」「日本人と友達になる」「日本でアルバイトなどして働く」「日本で学んだ成果を母国で生かす」「日本という国の文化を学び慣れる」「日本という国で目標や夢を達成する」という、それぞれの段階で七回転ぶ可能性がある。しかし、そもそも日本に来て、そして入学式を迎えたということで、一回目の「起きる」は目的を遂げているのである。その意味において、今

後の頑張りが期待されるし、転んでもぜひ起き上がって頑張ってもらいたい。

◆留学生を取り巻く現在の現状の勉強会を受けて

日本語や日本文化の勉強に関しては転んでも起き上がることができるし、また、転んだ時には様々な人が助けてくれる。日本語学校というところは、日本語や日本文化に関して、または日本での生活の知恵ということに関して「学び」「教え」そして「助け」てくれる場所である。それらのサポートがあって、安心して学ぶことができるのであるが、しかし、中には助けられないことも少なくない。

その中の一つは、「恋愛」であろう。しかし、これに関しては、様々な個人的な事情があるので、ここで論じることはできない。このことに関しては、「失敗」のつもりが、後になってうまくゆくことなどもあるので、その辺はいろいろと経験を積んでもらいたいと思う。

そして、もう一つの助けられないことが、「犯罪」である。もちろん、犯罪を行わないように、または、気が付かないうちに罪を犯してしまうようなことがないように、多くの人が注意を喚起してくれたり、あるいは、教えてくれたりする。しかし、留学生の場合は、どうしても自分の母国の習慣で行動をしてしまうことが少なくない。そのために、本人が気の付かないうちに犯罪に手を染めてしまうことがある。それらに関しては、しっかりと事前に教えてあげなければならないのではないかと。

全国日本語学校連合会(JaL S A)の2月20日の勉強会では「留学生を取り巻く現在の現状」と題して、警視庁組織犯罪対策総務課より講師にお越しいただいて話を伺った。その時の内容を参考にして、我々日本語学校が留学生を犯罪に走らせないようにするためには、何をしなければならないのか、あるいは何ができるのかということを考えてみたい。

警視庁管内における平成29年の外国人検挙数は3,110人、そのうち留学生は814人で全体の26%になるという。前年比では、全体の検挙数が104人増えているのに対して、留学生は96人減っているということになる。これは、日頃の日本語学校の先生方の努力と指導の結果であると考えられる。つまり、今まで行ってきた指導に関して、その方向は間違っていなかったということであると同時に、それだけ努力をしても、やはりなお犯罪者を出してしまっていると言える。難しい目標であるが、このまま留学生の犯罪者数がゼロになるように何とかしたいと考える。

さて、その内訳は、「窃盗犯」が全体の42%と多い。やはり、「万引き」というようなことが少なくない。このほかにも、ちょっと帰りに放置自転車に乗ってきってしまうというような「占有離脱物横領罪」というのが比較的多くなっている。これに対して刑法ではない特別法であれば、最も多いのはやはり「入管法違反」であり、「不法残留」が特に目立つ。また、住所が変わったときなどの「届出義務違反」も多くなっているため、これらは学校側でも十分に気を付けてあげたいことである。

留学生はアルバイトの時間も制限されており、また仕送りなどもなかったり不十分であっ

たりするので金銭的に困っている学生も少なくない。しかし、だからと言って犯罪が許されるようなことは全くないのである。そのうえ、犯罪を行ってしまえば、すぐに強制送還させられて、次に「起き上がる」ことはできなくなるのであるから、そのようなことにならないように、しっかり指導しなければならない。

また、「暴行」などが多いという問題や、あるいは「銃刀法違反」などに関して問題になっていることがある。「暴行罪」の場合は、当然に暴力を振るうことになるのであるが、実は「窃盗犯」に間違えられた場合や、または何らかの声をかけられた場合には、留学生、特に新入学生の場合は言葉が分からなく、恐怖で暴力を振るってしまったり、あるいは、暴力のつもりがなくても手を振り払って逃げたことが結果的に暴力になったりということになる。そのようなことは、「日本語を勉強すること」や「そのような場合に備えての日本語を学ぶ」ということなどで予防することができる場合があるし、また、「窃盗犯」に間違えられた場合などでは買い物レシートをきちんと持っていることなどで、様々に予防することができる。そのような知恵を持たせてあげることで、思わぬ犯罪を防ぐことができるのではないか。また、「護身用」としてナイフなどを持っている場合があるので、日本では銃刀法で所持が禁じられているし、治安上もそのような必要がないという「文化」を教えてあげていただきたいものである。

◆千年以上前の十七条憲法に学ぶ「成功のカギ」

聖徳太子が出したとされる「十七条の憲法」の第1条は「一曰。以和為貴。無忤為宗。人皆有黨。亦少達者。是以或不順君父。乍違于隣里。然上和下睦。諧於論事。則事理自通。何事不成。」とある。現代語にすると「和を何よりも大切なものとし、いさかいを起こさぬことを根本としなさい。人はグループを作りたがり、悟りきった人格者は少ない。それだから、君主や父親のいうことに従わない、近隣の人たちともうまくいかない。しかし、上の者も下の者も協調・親睦の気持ちをもって論議するなら、おのずから物事の道理にかない、どんなことも成就するものだ」となる。まさに、日本という国は、千年以上も前にできたこの言葉の文化を今も持っていると言っても過言ではない。「和」を大切にするというような文化があれば、そして、それが留学生であってもそのような心があれば、その心をよく理解してもらえば、様々なところで道が開かれるはずである。日本の文化を教えるということは、まさに、そのようなことを教えることではないかという気がしてならない。

「罪を犯さない」ということは、一つには、「犯罪という和を乱すことを行わない」ということであり、犯罪は「協調、親睦の気持ちをもって論議する」ということができない場合に起きてしまう。上記において例に挙げたように、「日本語が分からないから暴行罪になってしまう」というのは、まさに「論議する」という技術が少ないために、協調や親睦の気持ちが伝わらないことを意味するのである。

その意味において、日本語を学ぶということが最も重要であり、そのうえで、「日本語か

ら学ぶ日本の文化や日本の心」をよく理解することで、日本での活躍や日本と母国の懸け橋となる夢が約束されるのではないだろうか。

実は十七条の憲法の中に、このことが書かれている。第9条には「九曰。信是義本。每事有信。其善悪成敗。要在于信。群臣共信。何事不成。群臣无信。万事悉敗。」つまり、「真心(まごころ)は人の道の根本である。何事にも真心がなければいけない。事の善し悪しや成否は、すべて真心のあるなしにかかっている。官吏たちに真心があるならば、何事も達成できるだろう。群臣に真心がないなら、どんな事も皆失敗するだろう」である。まさに、日本語学校の先生方は、この「真心」をも教えることが重要であり、改めてその力量が試されているのではなかろうか。

「心を教える」ということは難しいことかもしれないが、実は、それが最も物事を進める力であり、最大の成功のカギであり、そして、「七回転んでも八回目に起き上がる力」になるのではないかと考える。

それを先生方にぜひ実践していただき、新入学生の皆さんの将来の活躍につながることを期待したい。